

1

おなじ形がにている音をあらわす音記号

漢字はもともと中国のことばをあらわす文字としてつくられた。ことばは人のくらしをうつしとってつくられる。人のくらしにそれまでにないものごとができれば、それをあらわすことばが生まれ、あたらしい漢字がつくられた。いま、**甫**と**甫**というおおもとの漢字をとりあげ、それがふえていくとき、形や音や意味がそれぞれどんなかわりかたをするかみてみよう。

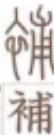


たぐきもの
ふたはなれたふた
まはなれたふた
しほふ



圃 ほ
ほたけ

ほ



補 ほ
おぎなう

ほ



捕 ほ
つかまえる

ほ



鋪 ほ
つらなる

ほ



浦 ほ
ほら

ほ



輔 ほ
たすける

ほ



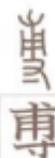
甫 ほ
ほたけ
なまき
ほたけ

ほ・ほ

●**甫**は、**へ**の根をかこむ形からできたかたどりの文字だ。だから、**苗**をしばったり、かこったり、つかんだり、ひろく植えたりする意味をもっている。そこから、**へたんぼの圃**、**へつかまえるの圃**、**へひろいはまの圃**、**へぬのをしめてつくらうの圃**、**へ品物をしきならべるお店の圃**、**へ車のそえ木をたすけるの圃**などの漢字がつぎつぎにつくられた。



つたはほ
つたはほ



敷 ふ
ふくはくはく

ふ

●やがて、**甫**に**手**のはたらきをあらわす**す**をつけて、**へ物を手でうつす**という意味の**専**ができた。そして、こんどはこの**専**がもとになって、**へなえぎを植え**、これを**手でうつて土をかためる**の**敷**、**へなえぎをひろくしきひろめる**の**博**、**へ手**でうつて**うすくひろげる**という意味



簿 ぼ
ちとてん
しほす

縛 ばく
しばる
つかむ

薄 はく
うすい

博 はく
ひろい
おほい

敷 ふ
ひろい

bo baku haku haku fu



ぎを**しばる**の**縛**、**へ手**でうつて**うすくした竹札**、**ちようめい**の**薄**などの漢字も**つきつぎ**につくられた。こうして、もとはおなじ形からできた漢字も、形や音や意味がすこしずつずれて、いまではちよつと見ただけではおなじなままだと思えないような漢字もたくさんできてしまった。でも、注意ぶかく見ると、形や音や意味のどこかににているところがみつかる。それを**手がかり**に、漢字がつくられたころのおたがいのつながりをつかむことができるんだよ。

●専(せん)と、専(せん)にはこの手

例

洞	吟
鋼	

（例の漢字は省略）

棋 房 層 額 格 盤 刊 賀 銅 基 筒 欺 客 琴 期 芳 汗 架

2 母音ぼおん（ア、イ、ウ、エ、オ）でゆるる音記号おんきごう

日本語では、どの音も「ん」のはじめ長くのばすと、ア・イ・ウ・エ・オのどれかの音がでるしくみになっている。それで、ア・イ・ウ・エ・オのことを母音ぼおんという意味で、母音正片仮名ぼおんせいはとていっている。ローマ字でかくと、五十音のどれにも、a, i, u, e, o, n の母音がついているのでよくわかる。つぎの野球のベース板ベースいたのような図は、母音を発音するときの舌のうごきをわかりやすくかきあらわしたものだ。



ア a

イ i

ウ u

エ e

オ o

ア(a)は、口を大きくひらいて、舌はあげる。

イ(i)は、口をたいらにひらいて、舌先をたかくもちあげる。

ウ(u)は、口をまるくひらいて、舌の先をたかくもちあげる。

エ(e)は、iよりもひらく口をひらいて、舌先舌をすこしもちあげる。

オ(o)は、aよりも口をすこしせまくし、くちびるをまるめ、舌をすこしもちあげる。



漢字あそび

(□のなかにどの漢字がはいるかな？ おなじ漢字を2つつかってもいいよ)

① 当□は□列な人でないど招□されなかつたが、いまでは、放浪□人でも、□等

席に招□される。……………時特待詩

② 元□時代には日本全土に広大な□地があつたことが記□にのこっている。……………

緑録祿

③ 本□の染□家が無□になつて、常□ではかんがえられないことだが、□機の内□

識織職

④ 賞□の差がはげしいので、□業をさかんにしたら、人びとから全□の信頼をよせられ、

幅副福富

そのうえ、みんな幸□になつた。



漢字あそび

(つぎの漢字から部首をひいたら、どんな漢字ができるかな？)

撮影の撮—扌→最後

郊外の郊—阝→□通

爆発の爆—火→□力

日蝕の蝕—虫→給□

鼓笛の笛—竹→自□

時間の時—日→□院

面積の積—禾→□任

承認の認—言→□者

翻訳の翻—羽→□犬

粘土の粘—米→独□